

日EU英語俳句コンテスト結果発表
(優秀作品の紹介)

平成24年9月5日

1. 最優秀賞 (EU 部門)

Light breaks free

A new day is born

The mantis comes out to pray

Zeshan Hayat (UK)

(仮訳) 明かりが解き放たれる

新しい日が生まれる

螳螂が祈るために出て来る

ゼシャン・ハヤト (英国)

注) 礼拝を捧げている姿を連想させることから、英語では、かまきりを「praying mantis」とも言う。

【応募者メッセージ】

私は詩を詠むことが好きで、「曙」の本質を表した句を詠むことは、大変やりがいがありました。このイメージを言葉で表現出来ることを光栄に思います。私にとって「曙」は、私達みんなが手を合わせ、祈りを捧げて祝うべき新しい始まり、新たな日や新たな時代の誕生を意味します。これらの祈りは、私たちの成功と福祉、人々の福祉、そして神の恩恵により目にするこの新しい日において、私たちが実現を願うことに対する祈りです。

【審査員コメント】

「解き放たれる」が夜明けの表現として斬新であり、カマキリが3行目に出て来るのはさらに意表を突かれる。最初の2行と3行目との間に詩的飛躍があって俳句の骨法が駆使されている。

2. 最優秀賞 (日本部門)

dawn of summer solstice

coming out of

a vivid dream

黒野 靖子 (愛知県)

(仮訳) 夏至の夜明け

目覚めてくる

鮮やかな夢から

【応募者メッセージ】

日本人よりもおそらく欧州の方々は日照時間が短くなる夏至を迎えると少しもの悲しく感じることを思います。日本では、夏至はそこまで暑くなく、夏本番とは言えないのですが、初夏の短い夜の日の鮮やかな夢や記憶から目覚めることは、さらにリアルで美しいであろうこれからの日々を考えられる新鮮な瞬間です。

【審査員コメント】

夏至は6月下旬に昼が一年で最も長く夜が最も短くなる日だが、そのような特別な日の夜明けは普段と違って多少茫然とする。夏至が夢から目覚めて来るのかそれとも作者の「私」が目覚めて来るのか一読した限りではわからない。そこに一種不思議な感覚が生まれる。

3. 入選 (松山市/EUからの記念品贈呈)

A scent of fresh-cut grass

Embracing the morning star

Born to the east.

(Stela Koeva, ブルガリア)

rose petals

tremble at the first sun ray

early at dawn

(Vladimir Ludvig, クロアチア)

Shining sun and swaying moon

Smoothly embraces

The placid lagoon

(Maria Teresa Pedrosa da Glória Patrício, ポルトガル)

Nightly summer rain

after yet still the plum fruit

has stayed warm to touch

(Erik Loide, エストニア)

Carried in crane's beak,

seed of light dropped into rye,

mist cleared our merged bridge.

(Tiina Silvia Lahesoo, エストニア)

on my way to work

the train crosses the river

at dawn

さえきじゅんこ

(佐伯純子, 東京都)

a dawning sky-

Is a colorful map

without borders

いそがわけいこ

(五十川敬子, 京都府)

The rainy season

Many umbrellas look beautiful

As if they are dancing

かみやましゅん

(神山峻, 福島県)

dawn-

*the first flight taking off
toward the purple sky*

やざきひでゆき
(矢崎英之, 神奈川県)

*dawn in summer-
a fresh air from
bamboo lattice*

はやしあきひこ
(林昭彦, 大阪府)

4. 日EU英語俳句コンテストへの国別応募者数

